

# 2021年度(令和3年度)学校評価自己評価表

松永中学校区	校番 14	福山市立松永中学校
最終更新日		2022年(令和4年)2月21日

## I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&amp;倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>
---

## II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の中、各学校感染拡大防止策を考え工夫されて学習、行事に取り組まれている。来年度も、子どもたちが自分でルールなどを考えながら、学校が楽しいと感じられるように校区の学校が取り組んでほしい。</li> <li>・評価項目の8項目において、十分満足、概ね満足できるという肯定的評価をいただいております引き続き努力してほしい。</li> </ul>	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力調査をなどから、算数・数学では説明する力、国語では文脈に則して語彙を適切に書く力など自分の考えを表現する力に課題がある。</li> <li>・他者意識が低く、挨拶をしない児童生徒が多い。</li> <li>・交通ルールが守れず、事故件数が増えている</li> <li>・児童生徒の自己肯定感が低い。</li> </ul>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&amp;倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>“コミュニケーション能力&amp;感性・思いやり”</p> <p>自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力を身につけた子ども”</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業づくりにおいて、「少人数での協働的な学びあい活動」、「問い続けたいくなるような発問の工夫」「効果的なICTの活用」などに取り組む</li> <li>・あいさつ運動に取り組む</li> <li>・親子で語り合ったり、ふれあったりする時間を増やすことに取り組む</li> </ul>
--	---	--	--

## III 自校

<p>ミッション</p> <p>地域社会で活躍し、その発展に寄与することができる知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&amp;倫理観”)</p>	<p>“コミュニケーション能力&amp;感性・思いやり”</p>				
<p>学校教育目標</p> <p>感性豊かで、たくましく生きる生徒の育成</p>	<p>めざす子ども像</p>	<p>&lt;自己を認識する力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の性格や得意なこと、興味・関心を持っていることなど、”自分自身“を理解する力を育成する。</li> </ul> <p>&lt;自分の人生を選択する力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の将来の夢や目標、自分がやるべきことなどを、自分自身でしっかりと考え、自分で選ぶ(決める)力を育成する。</li> </ul> <p>&lt;表現する力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身のこと、自分の考えや思いを、相手に理解してもらえるように、工夫しながら伝える力を育成する。</li> </ul>				
<p>現状</p> <p>&lt;児童生徒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が落ち着いて、学校生活を送ることができるようになってきた。</li> <li>○部活動や学校行事、ボランティア活動に積極的に取り組んでいる。</li> <li>●生徒が主体になって課題を解決していく意欲を育て、家庭学習の習慣を更に身に付けていくことが大きな課題である。</li> <li>●子ども同士の言動、SNSでのトラブルが生じることがある。</li> </ul> <p>&lt;授業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が意欲的に授業に取り組む姿が見られるようになってきた。</li> <li>○「授業がよく分かる」生徒はアンケート調査の結果89%である。(2月末)</li> <li>●学力調査の課題のある問題や生徒のつまずきを活かした指導を継続する。</li> <li>●生徒主体の学びにつながる授業を全教室で展開していく必要がある。</li> </ul>	<p>研究</p> <table border="1"> <tr> <td>教科等</td> <td>全教科と道徳</td> </tr> <tr> <td>主題・内容等</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が主体的に考え学び合う中で、「分かった」「できた」を実感できる授業づくり ～思考スキル・コミュニケーションスキルの活用を通して～</li> <li>・効果的にICT機器を活用した指導方法の工夫</li> </ul> </td> </tr> </table>	教科等	全教科と道徳	主題・内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が主体的に考え学び合う中で、「分かった」「できた」を実感できる授業づくり ～思考スキル・コミュニケーションスキルの活用を通して～</li> <li>・効果的にICT機器を活用した指導方法の工夫</li> </ul>	<p>めざす授業の姿</p> <p>子どもから次のようなつぶやきが出る授業 「なぜ、そうなるの」「わかった」「できた」「なるほど」「そうか」「説明できるよ」「わからん 説明してくれる」</p>
教科等	全教科と道徳					
主題・内容等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が主体的に考え学び合う中で、「分かった」「できた」を実感できる授業づくり ～思考スキル・コミュニケーションスキルの活用を通して～</li> <li>・効果的にICT機器を活用した指導方法の工夫</li> </ul>					

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	70% 達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 達成 評価	総合 評価	改善方策		
4	自ら考え学ぶ授業づくりを進めて、学ぶ意欲と基礎学力を向上させる。	★	見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>「子ども主体の学び」全教室展開を着実に進めていく。</li> <li>効果的に ICT 機器を活用した指導方法を研究していく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>思考スキル、コミュニケーションスキルを1時間の授業で活用する。</li> <li>各教科の授業において、デジタル教材を利用し、個に応じた課題を解決することにより基礎学力を向上させていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査による「授業がよく分かる」の肯定的評価85%以上</li> <li>アンケート調査によるICT機器の利用満足度を80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 機器の積極的な活用で、資料や動画等を使った授業を取り入れた。アンケート調査による「授業がよく分かる」の肯定的評価 89%であった。</li> <li>ICT 校内研修会を5回実施し、授業での活用方法を職員全体で共有した。アンケート調査「ICTを活用して主体的に学んでいる」の肯定的評価 91%であった。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科によって肯定的評価に差がある。授業交流等を通して「主体的な学び」の授業を充実させる。</li> <li>ICT 実行委員会を中心とした実践研修をさらに積み重ね、授業での活用内容を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内授業研修会を実施し、「生徒主体の授業のためのファシリテート」について協議した。アンケート調査による「授業がよく分かる」の肯定的評価 91.4%であった。</li> <li>ICT 校内研修会をさらに実施し、授業での活用方法を職員全体で共有した。アンケート調査「ICTを活用して主体的に学んでいる」の肯定的評価 93.3%であった。</li> </ul>	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力調査を踏まえた授業実践内容をさらに全教科で共通認識を持ち、どの教科においても「学力向上」と「主体的な学び」が取り組めるよう研修を深めていく。</li> <li>全教科共通した ICT 活用内容と、教科の特性に合わせた工夫を考える研修を来年度早々に持ち、生徒が自ら学べる授業内容を構築していく。</li> </ul>
4	授業、学校行事等をおして、生徒の自尊感情と感性・思いやりの心を育てる。	★	見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の性格や得意なこと、興味・関心を持っていることなど。”自分自身“を理解する力を育てる。</li> <li>自分自身のこと、自分の考えや思いを、相手に理解してもらえようように、工夫しながら伝える力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人を大切にしない言動は毅然と指導し、生徒の頑張りには積極的に認め共有するための具体策を設定し実施する。</li> <li>他人の意見を傾聴して、自分の考えを相手に伝えることで相互理解を深めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査による学級・学校に対する満足度を85%以上にする。</li> <li>アンケート調査による各教科の授業で自分の考えを发表或言したり、表現したりすることができる実施率90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査による「松永中学校の生徒で良かった」の肯定的評価は94%であった。</li> <li>アンケート調査による「授業で発表・発言するときに分かりやすく伝わる」の肯定的評価は80%であった。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ運動や生徒会主体の学校行事を展開し、松永中学校への帰属感を持たせる取り組みを仕組んでいく。</li> <li>自己肯定感が低いため、自分の思いを、自信を持って発表できない傾向が見受けられる。「あいさつ」から見直していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査における肯定的評価は94%であった。</li> <li>アンケート調査による「授業で発表・発言するときに分かりやすく伝わる」の肯定的評価は72%であった。</li> </ul>	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会が中心となって、毎日あいさつ運動を行っている。継続させることで、自ら挨拶することのできる主体性のある生徒を意気性する。</li> <li>自分の考えを表現することを苦手としている。「自己表現」を行う場を、授業や HR 等で適切に設定していく。</li> </ul>

5	学校教育に対する機運を高め、地域・保護者と一丸となった取組を進める。	★	継続	保護者・地域の学校教育に対する満足度を90%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域行事やボランティア活動に参加する。</li> <li>通信の発行やHPの更新を通して、学校の取組を広く発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が地域及び学校生活に係るボランティア活動に一人1回以上参加している。</li> <li>学校、学年通信は月1回発行、HPは週1回以上更新</li> <li>保護者アンケート『わが子を松永中へ通わせて良かった』の肯定的評価が90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア活動実施が難しい状況があり、実施はできていない。</li> <li>HPを刷新し細かい情報発信ができています。保護者への必要な案内は常時発信、更新できています。</li> <li>アンケートにおける保護者の評価は84.3%であった。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>状況に応じて、生徒への積極的なボランティア活動参加を促すと同時に、生徒会主催等の校内外活動も計画・実施していく。</li> <li>定期的なアンケート等によるリサーチで保護者・生徒のニーズを早期にキャッチできるとように計画する。学校行事等の変更等の情報を可能な限り早期に発信できるように計画する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナウイルス感染拡大防止により実施はできなかった。</li> <li>HPを活用し細かい情報発信ができた。保護者への必要な案内は常時発信、更新できています。また学校通信も行事等の節目に発行できた</li> <li>アンケートにおける保護者の評価は80.1%であった。年間の平均は82.2%であった。</li> </ul>	3	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度は、ボランティア等の実施形態を工夫しながら、可能な限り活動を計画していく。また受動的ではなく能動的な発信を目指す。</li> <li>HPやメールでの連絡、情報共有の需要が高まっている。そのため、紙での発信の見直し、生徒の学習端末等を用いた発信を工夫し実施していく。</li> </ul>
3	教職員が元気に笑顔で力を発揮できる取組を進める	★	継続	日々の仕事の中で充実感(達成感)を得られている教職員の満足度を90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的に業務改善に取組み、研修、会議等の設定時間厳守し、生徒と向き合う時間を生み出していく。</li> <li>週1回の定時退校日、週2回の部活動休養日の取組を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査による「仕事に意義ややりがいを感じている」の肯定的評価90%以上</li> <li>時間外勤務時間が月45時間以上の教職員が3人以下</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートにおける肯定的評価は93.8%であった。</li> <li>4月から9月までの平均は6.1人である。</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的評価＝学校の安定＝授業の充実ととらえ、今後はさらに効果的にICTを活用した授業改善の視点での充実を図る。</li> <li>数値は減少傾向であり改善が伺える。今後も継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>後期アンケートにおける肯定的評価は100%であった。年間の平均は96.9%であった。</li> <li>10月から1月までの平均は6.2人であった。年間を通じての平均は6.1人であった。</li> </ul>	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>業務改善において、バーバレスに向けた取組、日常業務のデジタル化等を行った。また、日々の授業においてICTの活用度も向上し、教職員の満足度も高まったといえる。来年度も更なる業務改善にチャレンジする。</li> </ul>

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。